

## CS タウンミーティングで寄せられた地域の意見 ～地域の声～

### ◆タウンミーティングの概要

#### 1 目的

昨年 10 月に開催した CS 関係代表者意見交換会において、当町学校の統合などに関する意見が多く出され、町学校運営協議会としては「どんな学校にすべきか、またどんな子どもに育てるべきか、」について地域住民と話し合う場として開催

#### 2 テーマ

『鱒ヶ沢町の学校をどんな学校にしたいのか』

▶サブテーマ：小中のつながり及び地域と学校との連携を考慮して

#### 3 日時

令和 4 年 11 月 27 日（日） 10:00～11:45

#### 4 場所

町中央公民館 2 階 大会議室

#### 5 出席者

学校運営協議会委員、教育委員、社会教育委員、教職員、保護者、こども園関係者、町内会関係者 計 24 名

#### 6 意見（一例）

- ・ボランティアで中学校に関わっているが、校舎の老朽化については学校に行くたびに心配に感じており、もしも大きな地震が平日の授業中に発生したら生徒はどうなるのかと考えると怖くなる
- ・私の町内でも子どもたちの声を聞くことが少なくなっているのが現状であり、小中一貫教育には賛同するが鱒ヶ沢高校はゴルフ部やドローンなどで頑張っているので、小中高一貫の教育もいいと感じている
- ・コミュニティ・スクールとは、学校を核に地域づくりをすることであるが、ふるさとを大切に思う子どもの育成には子ども自らが地域課題に目を向け、課題について考え行動できる子を育てることが重要だと感じている
- ・昔のように小学生が中学生と一緒に遊ぶことが楽しかった時代も、今は厳しいのが現状であるが、小中一貫教育体制にすればそれも可能になると思っているし、地域課題を解決するのも地域の動きや考え方をいち早く理解することができるので簡単になるものと思っている
- ・併設する小中学校に携わったことがあるが、小中一貫教育になると中学生が全体を見通す力が付き、思いやりの心は育っていくが、その反面、小学 6 年生は中学生に頼りがちになる分、通常の 6 年生よりは責任感や下級生に対する思いやりは薄くなりがちだと感じた

- ・特別学級や複式学級は、学年の違う子どもたちが一緒に過ごしており、学校としては違う学年でも平等に接しているところだが、子どもたちにとっては同じ教室に上級生がいることで下級生はプレッシャーに感じていると話しており、先生と児童では目線が違っているようで、そういう意味では西海小学校の複式学級の解消をお願いしたいところ
- ・小中一貫教育にもメリットとデメリットがあるので、そこを考慮して出来ることから始めて欲しいと思う反面、例え2つの小学校が統合しても近い将来は1学年1学級になると考えると、9年間の長い期間を同じ子どもたちで過ごすことは、人間関係の面では配慮すべきところは多々あると感じている
- ・コミュニティ・スクールのある町として小中一貫教育は良いと感じており、何よりも小学生が中学校に進級すると中学生がとても大きく見えるところから中1ギャップが発生していると思うので、それを少しでも解消できる教育体制として9年間を一貫して小学生のうちから大きな中学生を見て育つ環境の小中一貫教育は賛成と思っている
- ・校舎の老朽化については、地震発生で建物が潰れては困るので、予算が伴うことでもあるが早急な対応をお願いしたい
- ・挨拶については、本来は家庭教育の問題ではあるが、それを家庭だけではなく地域の住民も自らが進んで挨拶をするようになればいけないと思っている
- ・鱒ヶ沢町はコミュニティ・スクールの先駆者と考えており、県内でも徐々に取り組み始めた自治体が増えてきたが、何よりも地域と学校と行政の三者が話し合うことはとても重要で、そこで出た意見をもとに学校長が今後の学校運営に反映させていけると思う
- ・三戸学園で行っている立志科の授業は、生まれ育った町のことを知り考える良い機会があるので、子どもたちが自分の町に愛着を持てれば人口減少の要因である町外流出を防ぐことにつながると感じた